

tam tam

2023.09

VOL.24

P1 [特集]こどもをまんなかにした地域づくり

P2 [特集]こども施策の6つの基本理念
誰もが参画できる丹波市を目指して

P3 隣の自治協さん「国領地区自治協議会」
丹波市民、学びの窓「探究学習から見る未来」

P4 繋ぐ!市民活動「水上相撲甚句同好会」
活動事業者紹介「ご近所」

SPECIAL FEATURE

今号の特集

こどもをまんなかにした地域づくり



出典：こども家庭庁ウェブサイト

少子化が進み、こども（*）の数が減少している一方で、児童虐待通報は増加し、いじめ、自殺など、こどもが生きづらい世の中になっています。日本にはこどもに関わるあらゆる場面で、こどもの権利が守られるべきと定める基本の法律がなく、こどもの権利が守られているとはいえない状態でした。そのような中、2023年4月1日にこども基本法が施行され、こども家庭庁が誕生しました。こども基本法は、日本国憲法および児童の権利に関する条約の精神に則り、全てのこどもが、将来にわたって幸

福な生活を送ることができる「こどもまんなか」社会の実現を目指し、こども政策を総合的に推進することを目的としています。こどもや若者のみなさんは、1人ひとりがとても大切な存在です。みなさんが自分らしく幸せに成長でき、暮らせるように、社会全体で支えていくことがとても重要です。今回はこども基本法の基本理念とこどもの権利について解説し、地域づくりにおけるこどもの参画について考えていきます。

* 本特集では、こども基本法に合わせ、表記を「こども」に統一しております



丹波市市民活動支援センター
TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

Topics 01 こども施策は何を大切にしているのか？

こども基本法では、18 歳や 20 歳といった年齢で必要なサポートがとぎれないよう、心と身体の発達の過程にある人を「こども」としています。こども施策は次の6つの基本理念をもとに行われます。

こども施策の6つの基本理念

- 1 すべてのこどもは大切にされ、基本的な人権が守られ、差別されないこと。
- 2 すべてのこどもは、大事に育てられ、生活が守られ、愛され、保護される権利が守られ、平等に教育を受けられること。
- 3 年齢や発達の程度により、自分に直接関係することに意見を言えたり、社会のさまざまな活動に参加できること。
- 4 すべてのこどもは年齢や発達の程度に応じて、意見が尊重され、こどもの今とこれからにとって最もよいことが優先して考えられること。
- 5 子育ては家庭を基本としながら、そのサポートが十分に行われ、家庭で育つことが難しいこどもも、家庭と同様の環境が確保されること。
- 6 家庭や子育てに夢を持ち、喜びを感じられる社会をつくること。

Topics 02 誰もが参画できる丹波市を目指して

こども基本法において、今後、地方自治体は、国の「こども大綱」を勘案し、一体的な「こども計画」を策定する努力義務が課せられています。そして、自治体は、こども施策を策定・実施・評価するにあたり、施策の対象となるこども・若者や子育て当事者等の意見を幅広く聴取して、その意見を反映させるための取組をすることを求められています。例えば、次のような手法が想定されています。

- ◆ こどもや若者を対象とした意見募集の実施
- ◆ 審議会・懇談会等の委員会等へのこどもや若者の参画の促進
- ◆ こどもや若者にとって身近なSNSを活用した意見聴取
- ◆ こどもや若者から直接意見を聴く仕組みや場づくり

丹波市では、丹波市議会が 2022 年 6 月に「こどもの権利に関する理念条例調査研究特別委員会」を設置し、こども基本法等に則した、こどもの権利についての理念条例の制定に向けた議論が進められています。2023 年 8 月 1 日には、こどもたちの意見を聞く場として、小学生から大学生を対象にした「こどもまんなか会議」が開催されました。

また、丹波市教育委員会と丹波市まちづくり部市民活動課が連携し、学校、家庭、地域の連携・協働により、こどもの成長を支え、こどもから大人までが参加する学びの機会と地域

コミュニティづくりを目指した取り組みとして、「学校を核とした地域づくり（地域学校協働活動）」の推進に取り組んでいます。市民活動支援センターの指定管理者である特定非営利活動法人丹波ひとまち支援機構でも、「子どもも大人も学び合い、育ち合う、誰もが楽しく参画できる地域づくり」を目指して、学校を核とした地域づくりを応援、支援する『丹波「学校を核とした地域づくり」プロジェクト』を実施しています。



学校を核とした地域づくり講座



詳細ページ

隣りの自治協 さん

TONARI no
JICHIKYO san

国領地区自治協議会

三尾山の麓、人や自然の交流地

国領地区自治協議会（以下、自治協）は、春日地域の進修小学校区にあり、人口約2,000人、約870世帯、4自治会で構成されています。国領地区は中央を流れる竹田川に沿って山間に田畑や集落が広がる農業の盛んな地で、丹波市名産の大納言小豆の発祥の地です。福知山市と丹波篠山市につながる2本の県道が交差し、古くから人流や物流の中継点として栄え、市内唯一の温泉が湧き、多くの人が訪れてきました。現在でも瓶割峠や三尾山などを整備したトレッキングコースや、ひまわり柚遊農園など、愛好家や観光客に人気があります。

自治協では各自治会の夏祭りの支援や、三尾山の元旦登山などの事業を行ってきました。元旦登山の参加者は今年約100人で、コロナ禍以前の参加者より少なく、多くの人に登ってもらえるよう工夫をしたいと考えています。

拠点施設ふるさと館で育む住民の交流

住民の「ふるさと館でコーヒーが飲めたらいいな」の声から、丹波市社会福祉協議会の支援を受けて自治協の拠点でスタートしたのが『ふるさとカフェ』です。2022年度から5回開催され、高齢者を中心に参加者は開催毎に増えています。住民が作る回転焼きやカレーライスの提供の他、就労支援事業所のパンの販売や、大正琴・三味線・尺八の文化教室の演奏会など、住民のつながりづくりに貢献しています。丹波市東部地域包括支援センターの出張相談窓口『地域の保健室』コーナーも毎回住民の利用があり、民生・児童委員の協力を得ながら開催しています。

国領ふるさと塾は、夏休み中の小学生に住民ボランティアが学習支援をし、最終日には流泉寺で住職のお話を聞き座禅体験をしました。今年は進修小学校創立150周年を迎え、前身であるこの寺で開催することにしました。これからも子どもたちが自治協の行事に参加できるように、今後は小学校PTAとの連携も検討しています。



あちこちで会話が弾むふるさとカフェ



みんなで座禅を体験した国領ふるさと塾

丹波市民、学びの窓

探究学習で育まれる力

今の子どもたちは、学校でどのようなことが教えられているのでしょうか。ほとんどの読者は、学校教育を卒業し、相当の時間が経過していることでしょう。2020年から小中高校の学習指導要領が改定され、「探究学習」が重視されることになりました。

既に2000年ごろから、国語・数学のような教科学習とは別に探究学習は取り組まれてきました。教科学習は、記憶能力を問われるようなテストで評価することが多いです。一方、探究学習では、「自ら未来・社会を切り開いていく力を育む」とし、自主性、協調性、人間性や学習のプロセスが重視されています。授業

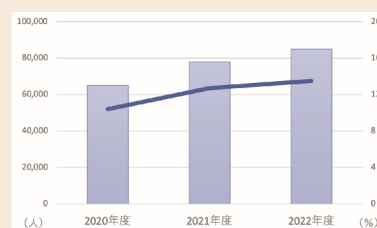
では、子どもの興味関心に基づく課題に、情報収集、整理、発表をグループで議論しながら進める形式が一般的で、その中身は各学校に委ねられています。

新しい学習の形に、「成果が測りづらい、教師負担が大きい、学力が身につかない」と言われることがあります。ただ、学力については、探究学習において積極的に取り組んでいる子どもほど、各教科の正答率が高いといったデータ（全国学力・学習状況調査）も出ています。

2022年度大学入試では13.5%が、総合型選抜で入学しており、探究学習で期待されるような能力・適性、学習に対する意欲、目的意識等が評価

されています。

探究学習という言葉は、単に授業科目を指すものではなく、部活動、学校生活、私生活とも合わさった形で広く探究的な学び方を指す言葉でもあります。子どもたちには、複雑で不透明な時代を、“自ら未来・社会を切り開いていく”が求められており、同様に地域の大人たちにも求められる力とも言えます。



増加する総合型選抜入学者数と割合
(文部科学省ホームページより抽出)



楽しく！市民活動

水上相撲甚句同好会

相撲甚句は江戸時代に始まり、力士の間で唄い継がれながら、地方巡業とともに広まりました。現在、日本各地に相撲甚句会があります。

代表の青木秀司さんは、2017年に一般社団法人大阪相撲甚句会が丹波篠山市で開講した篠山相撲甚句健康教室で練習を始め、2020年に水上相撲甚句健康教室（現同好会）を立ち上げ、現在は3人で活動しています。

相撲甚句は、腹式呼吸を使って独特の節回りで発声することが特徴です。声量や姿勢を保つことができ、会員たちの健康維持にもつながっています。七五調で唄われる甚句は、落語のように落ちがある小話や哀愁のある歌詞が魅力で、同好会

のメンバーで丹波の名所や会員の人生を歌詞にしたオリジナルの甚句を制作しています。

活動は徐々に広まり、丹波市や大阪府、三田市など市内外のイベントや施設で練習の成果を披露しています。市外の公演では丹波市出身者から「丹波名所甚句を聞いて、懐かしい故郷を思い出すことができた」と感想をもらい、活動のやりがいを感じると言います。

同好会は、毎月第2・第4水曜日の13時半から丹波市市民プラザで練習を行っており、誰でも見学することができます。現在、相撲甚句を通して楽しく活動する仲間を募集しています。



ステージでは着物姿と「アヘドスコイ」の合いの手で観客を誘う



自分たちで工夫して毎月練習を行う



活動事業者紹介

株式会社ご近所

春日町中山に事務所を構える株式会社ご近所は、地域の情報発信や取材執筆を手掛ける会社です。知らない人は思わず聞き返してしまう印象的なそのネーミングには、「地域の皆さんにとっての“ご近所さん”のような存在でありたい」という思いが込められています。

ご近所は今年の8月で創業12年目を迎え、新体制となりました。創業から年月が経ち、人員の入れ替わりや事業の拡大などに伴い、つい目の前の業務に追われるような時期もありましたが、新体制を機にもう一度創業の精神に立ち返り、创业者の掲げた「丹波と外の人々をつなぐ“風の会社”」としてあらためてスタートを切りました。

創業から続く「丹波の魅力を外に届ける情報発信」に加え、「移住者・都市部の企業と丹波とをアテンドする事業」を通して、双方をつなげるハブ（結節点）としての役割を目指しています。また拠点施設を広く一般に開放し、お茶を飲んだり、コワーキングスペースとして気軽に立ち寄れるようにしているほか、ワークショップやセミナーイベントを開催するなど新たな集いの場を提供しています。

創業当初はご近所というひとつの拠点に関係者が集まる点のコミュニティでしたが、そこから巣立った人が別の場所で新たなコミュニティを作り、更にそれらが混ざり合い、面のコミュニティとして徐々に広がりを見せています。



事務所からは地域のシンボル三尾山が見える

ゆらりふうわり
種子は風に乗り、
離れた地に花を芽吹かせる。
風に国境はない。
新しい人に遠い人の心を、
遠い人に新しい人の技を、
旧き友に新しいビジョンを、
生まれたての思いに
懐かしき香りを。
ご近所はこのまちを、
このまちの人々を元気にする
風の会社です。

創業の思いが込められた詩



丹波市市民活動支援センター

TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

〒669-3467 兵庫県丹波市氷上町本郷300 丹波ゆめタウン2階 丹波市市民プラザ内
TEL 0795-82-8683 MAIL ccac@tamba-plaza.jp

開館時間 10:00 - 18:00(会議室は21:30まで) / 毎週月曜日・年末年始休館

<https://www.tamba-plaza.jp/ccac/>

【情報誌へのご意見募集】

「たむたむ」についてみなさんからのご意見、ご要望をお待ちしています。役立つ情報紙と一緒に作っていきましょう。